

発行所

静岡県高等学校障害児学校教職員組合
静岡市葵区駿府町1-12
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyousho.jp/
e-Mail info@s-koukyousho.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

第471号

2021年

11月27日

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

あなたも高教組へ

2面・静岡県教育のつどい



人事評価結果の昇給の 上位区分への「活用」を強行 ～教育長交渉～

11月18日、高教組は教育長交渉(最終)を行い、深田委員長以下6名が参加しました。教育委員会の回答に対し、質疑・やりとりを行うとともに、交渉翌日、高教組は次の見解を表明しました。

1、給与改定

勧告通り一時金について0.15月分削減することは容認できない。
コロナ禍で公務労働の重要性が見直され、公務員の奮闘も再評価されている中、給与を民間に準拠させる原則そのものの再検討が必要である。

教職調整額のために時間外勤務手当が発生せず残業に歯止めがなく、特



確定署名 811筆提出

政府の見解と同様、勧告実施の延期を含め、慎重に検討することを求める。

2、1年単位の

変形労働時間制

来年度からの導入見送りは評価する。多忙は解消されず、適用要件を満たさない現状、多忙による在校等時間の実態や意向調査の結果からすれば見送りは当然である。

具体的、実効性のある多忙解消策が先に求められる。業務改革プランも効果が見えない。根本的には教職員不足、教育財政不足が原因である。コロナ禍で少人数学級が求められ、生徒数減による学級数減がチャンスでもある。国からの教育財政増、県独自の予算措置増などを県教委の使命として取り組むことを望む。

3、高齢者

部分休業制度

高齢者の多様な働き方を保障することは歓迎するが、代替確保もなく無給の部分休業制度は、本人も周囲も負担増となり多忙を招き、導入した他県でもほとんど利用されていない。

休暇・休業が取りやすいゆとりある職場にするための定数増、代替の確保、定年延長後の短時間勤務やハーフタイム再任用を定数外として配置するなどの、根本的な改善策を求める。

4、妊娠、出産、育児等 と仕事の両立

不妊治療休暇の新設、会計年度任用職員への適用などは歓迎する。
出産直後から男性の育

児への参加が長期にわたってできるように、5日間しかない「育児参加休暇」を8週間とすることを求める。

5、人事評価結果の 昇給への上位区分 への活用

人事評価結果を、賃金に関することへの活用は、廃止を求める。
競争原理や自己責任論が入り込みやすく、協働性が破壊する可能性の高いこの制度は、教育現場へ

みなさんの声をお寄せください 全教青年部委員会

10月24日、「全教青年部委員会」が開催されました。
コロナ禍で、感染や学びに対する心配の声が多く挙がっていましたが、ようやく「行事を行った」「こんな学習ができた」という話題が増えてきました。組合のとりにくみによる成果も複数聞かれました。私自身も、休憩時間が取れない現状を人事委員会に伝えたことで変化があったことを報告しました。

全国の先生方が工夫を凝らして頑張る話を聞き、勇気づけられました。業務が多忙だからこそ「声を集めることが大事」です。組合に入っていない方も、アンケートに答えて頂けるだけで、声を教育委員会や国に届けることができます。協力をよりしくお願います。一緒に「働くこととは何か」を考える仲間を増やした

公務の職場にはそぐわない。地公法そのものの改正が必要である。
やむを得ず導入せねばならないならば、生涯賃金に差がつかないように制度設計すること。手引きにある、他との競争ではなく、個々の教師の意欲資質の向上のため「め」が誤解なく伝わるよう、丁寧に説明すること。さらに、風通しの良い職場にするために、評価者に対する評価相互評価を求める。

視座

モチベーションには三段階あるんだそうです。第一段階は、生存のため
の生理的欲求。野生動物の動機。第二段階は、給と鞭、外発的動機付け。家畜的動機。そして、第三段階で、知らないことを知ろうとしたり、創造したり表現したり、世界をよりよくしようとしたりと人間の動機が出てきます。昇給は、勤務評価による成績主義賃金を改悪します。これまでは、ボーナスに差をつけていましたが、これからは、昇給に差をつけ、生涯にわたる差別賃金を導入するようです。
いわゆる外発的動機付けの強化、我々教職員は家畜的ではないので、困った意識する場面が増えていくでしょう。最近、生徒たちが授業を聞いてくれないんです。小テストやペナルティや追試がある科目は熱心に取り組むんです。テストに出ることもしつかりノートにとります。しかし、知的好奇心に訴えようとすると、こちらの力不足もあり、なかなか振り向いてもらえません。教育の外発的動機付けへのシフト、この流れと無関係ではないでしょう。内発的動機は、いったん外発的動機に置き換わると、もう元には戻りません。ここが怖いところ。モチベーションアップに必要なものは二つあるんだとか。目標を達成可能と思える「有能感」と自由により方を選べる「自己決定感」。なるほど、早速、取り入れてみます。さ、まずは、もがき続けること。諦めること、苦

手なもの。

主張

コロナ禍ではジェンダー不平等がもたらす矛盾が、女性たちをさらに困難な状況に追いつめました。

コロナ禍で増す女性の困難 ——女性の自死の急増——

昨年の定額給付金10万円の世帯主一括受け取りという、戦前の「家」制度を想起させるやり方は、夫のDVから逃れ方と離れて暮らす女性の受け取りを困難にしました。全国一律休校要請は家事・育児・パートタイム労働を担う女性の負担を増大させ、失業を余儀なくされる女性もいました。これらは政策における女性視点の

働く女性の56%は非正規労働者で、飲食業などのサービス業で働く多くの女性が職を失い、時短により、収入減で苦境に陥り、女性の自死が大幅に増えました。また介護・福祉・保育の分野に従事するケア

い実態があります。専門職でありながら女性が多く従事するケア労働が軽視されていることがわかります。コロナ感染拡大はジェンダー不平等な社会の矛盾を噴出させました。実は経済優先社会が女性たち

より法的にはほぼ男女平等になったと思われ、実質的な平等には程遠い状況です。高度経済成長は男性の長時間労働と女性の家事育児への専心によって支えられ、今もなお人々のなかに性別役割

分業規範が根強くあり、企業はそれを利用して男性を1人分の給料で長時間働かせ、それを支える女性の家事育児は無償のまま、さらに低賃金不安定労働力として都合よく女性を「活用」しようと、女性労働者は内外から何重にも搾取され続けています。日本女性の睡眠時間は世界一短いという統計もあり、女性が女性の過酷な実態を表しています。性別役割分業意識から脱却し、男女が平等に家庭での役割を果たすためにも、男女ともに労働時間の短縮は急務です。

(前田浪江)

の家事育児をはじめとする無償労働を犠牲にして成り立っていること、女性労働者によるケア労働を過小評価し、医療充実を後回しに人間の命を危険にさらしていたことをあぶり出しました。戦後、日本国憲法に

「免許更新廃止」「埼玉県での教員訴訟」など新しい動きがあります。9月24日には「特別支援学校設置基準」が公布されました。2021年12月に「全教青年部学習会」、2022年1月には「全国障害児学級・学校学習交流集会」、2月上旬には、中部地区の交流会が「オンライン」で開催されます。各々の都合に合わせて学びの機会が広がっています。

職場や県内に留まらず、県外と同じ志を持つ教職員と繋がる機会として、高教組しんぶんによる宣伝や各職場で配付されるチラシをきょうかけに全教の学習会に参加していただければ幸いです。

(浜松特支 土井喜)

第14回 静岡県教育のつどい 「はてな(?)」や間違いを大事にし、みんなのものにすることで学びが深まる

11月20日(土)に、静岡県教育会館で「第14回静岡県教育のつどい」を行いました。午前中は5つの分科会、午後は、静岡県教職員互助組合高校支部の教育講演会として、映画「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」の上映と、和光小学校の校長北山ひと美さんの講演会を行いました。約90人の参加がありました。



北山ひと美さんの「おはなし(要旨)」

英語も数ある外国語の一つと捉える。

総合学習は週に3時間。テーマは「異文化国際理解」と「心と身体学習」。「アイヌ」や「世界の生活と文化」として韓国英語を話す人々と交流して学ぶ。「性教育」も1年から6年まで継続して力を入れていく。

「実感を持って学ぶ、ついでに」

和光小学校は、1933年に創設。大正自由教育の中で、保護者の願いから生まれた。「和光同塵」から命名。その後、中学校、高校、大学、幼稚園ができた。和光で何をめざすのか、校長も選挙で選び、教育課程も職員みんなで議論して考えている。「道徳」「英語」も導入に悩んだが、普段の生活の中に組み込み、五感を使い実感を

持つて学ぶことを大切にしている。韓国や中国、沖縄の小学校のアメラジアンと毎年行き来して交流し、

「自分が参加しないと決めたのなら認める、あとで先生が伝えればよいのだから。でも今(この)いい質問が出てくるのにそれはないよ。生で聞いてほしい」と熱く語る。算数の「異分母の足し算」ではコーヒー牛乳づくりで導入。紙片を折りたり切ったりしながら考

えてきたり…。調べ学習で幅が広がり、公立中に進学しても困ったという話はない。

梅ジュースや梅干しを作ったり、1年生では針仕事を学び、アイヌ模様を刺しゅう。切り出しナイフで竹から箸を削り、次は鉛筆削り。干し柿用の柿の皮むきでナイフの違う持ち方を身につける。

3年生では蚕を飼う。絹製品を集めたり、解剖して絹糸脈を確認したり、桑の葉の天ぷら、さなぎの料理も体験する。かわいがって顔に載せる子も。「持ち帰らないで」というお母さんから悲鳴。

4年生は、多摩川の生

「教科書学習が喜びにあふれた授業づくり」

子どもたちが主体的に学ぶこと、そのための教材研究を重視、本物との出会い、具体的な体験を通して「問いを育てる」ことを大切にしている。

算数でも、タイトルと呼ぶ紙を折ったり切ったりしながら数や量を学び、広い部屋と狭い部屋、広いマットと狭いマットを使い、実際に体

験したりゲームをしながら「単位当たり量」を学ぶ。農家での体験、多摩川での生き物探し学習には、保護者も参加し一緒に体験してもらっている。

「生活へんききょう」

1年生では、梅の実から梅ジュースや梅干しを作ったり、1年生では針仕事を学び、アイヌ模様を刺しゅう。切り出しナイフで竹から箸を削り、次は鉛筆削り。干し柿用の柿の皮むきでナイフの違う持ち方を身につける。

3年生では蚕を飼う。絹製品を集めたり、解剖して絹糸脈を確認したり、桑の葉の天ぷら、さなぎの料理も体験する。かわいがって顔に載せる子も。「持ち帰らないで」というお母さんから悲鳴。

4年生は、多摩川の生

「生活へんききょう」

1年生では、梅の実から梅ジュースや梅干しを作ったり、1年生では針仕事を学び、アイヌ模様を刺しゅう。切り出しナイフで竹から箸を削り、次は鉛筆削り。干し柿用の柿の皮むきでナイフの違う持ち方を身につける。

3年生では蚕を飼う。絹製品を集めたり、解剖して絹糸脈を確認したり、桑の葉の天ぷら、さなぎの料理も体験する。かわいがって顔に載せる子も。「持ち帰らないで」というお母さんから悲鳴。

4年生は、多摩川の生

験したりゲームをしながら「単位当たり量」を学ぶ。農家での体験、多摩川での生き物探し学習には、保護者も参加し一緒に体験してもらっている。

「生活へんききょう」

1年生では、梅の実から梅ジュースや梅干しを作ったり、1年生では針仕事を学び、アイヌ模様を刺しゅう。切り出しナイフで竹から箸を削り、次は鉛筆削り。干し柿用の柿の皮むきでナイフの違う持ち方を身につける。

3年生では蚕を飼う。絹製品を集めたり、解剖して絹糸脈を確認したり、桑の葉の天ぷら、さなぎの料理も体験する。かわいがって顔に載せる子も。「持ち帰らないで」というお母さんから悲鳴。

4年生は、多摩川の生



「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

分科会報告

A 「授業づくり・学級づくり」分科会、B 「地域における学校の役割」分科会、C 「コロナ禍での心身の健康保障」分科会については、12月号で報告します。

D分科会

「わたしには何が出来るのだろう」

地域や学校で活動する静岡県立大学、静岡大学の大学生や団体等、多くの参加者が集まりました。

「エバーグリーン藤枝」は、高校生を中心として毎年講演会や藤枝市平和展、青春の鼓動を主催。それを機に繋がった全国高校生平和集会への参加の報告。

「静岡学習支援ネットワーク(SSS)」は、勉強したくても勉強できない子どもたちの一人ひとり寄り添った学習支援と居場所づくり。

「学生ボランティアセンター」は、たべものカフェ

「生活へんききょう」

1年生では、梅の実から梅ジュースや梅干しを作ったり、1年生では針仕事を学び、アイヌ模様を刺しゅう。切り出しナイフで竹から箸を削り、次は鉛筆削り。干し柿用の柿の皮むきでナイフの違う持ち方を身につける。

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

「あこがれの空の下」教科書のない学校の一年」

ことが大事」

教科書はほとんど使わず、自作のプリントでの授業。ちいちゃんのかげおくりも、「浅い読み方にならないように、最後まで読まずに」と一念を授業準備の議論。校庭で実際に影送りをやり、なぜ「最後の墓参り」なのか、子どもの疑問から戦争について驚くほどの深い議論が展開する。「疑問をとらあげ、みんなで一緒に考えなければ子どもものにならない、別の深い疑問も出てくる。教師は交通整理。解説してしまつたら、こぼれはならない」

E分科会

「特別支援教育」

特別支援学校に在籍する生徒の小二から中一の現在までを追った訪問教育の記録がレポートされました。

教師の前に姿を現すことができなかった当時、小二の児童が保護者の協力と教師のきめ細かな指導によって、数年を掛けて心の距離と共に物理的な距離を縮めていく様子に、参加者皆が引き込まれます。

後半の意見交換では、参加者から生徒の将来につながる力を付けるための具体的な方法が提案されたり、感覚過敏への対応方法が紹介されました。

生徒の困り感に寄り添える存在でありたい、そのために一人一人を大事にする教育をしたいと、参加した十五名が思いを共にすることができた会になりました。

